

## The Workshop for Teacher × MLA 第1回地域資料の教材化ワークショップのご報告

1 実施日 2021年7月24日(土) 13:00~16:00

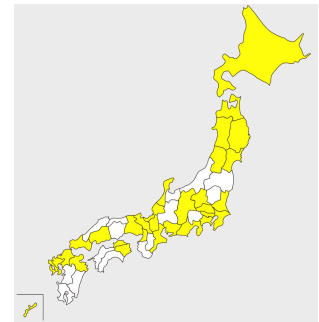
2 形態 オンライン (zoom) にて、以下のような流れで行いました。

第一部 ワークショップ開催の背景、DA資料の教育活用事例、ワークショップ説明：30分

第二部 ブレイクアウトルーム(5チーム)に分かれての教材化&議論タイム：100分

第三部 各チームより発表と全体議論：50分

3 参加者 北海道から沖縄まで31の都道府県より  
小学校・中学校・高校の先生、教育委員会、  
大学生・大学院生、大学・研究機関研究者、  
図書館・博物館・企業・NPOなど多様なご所属の皆様から  
お申込をいただき、当日参加者は約80名でした。



### 4 当日の議論

ブレイクアウトルームでは、各チーム学校関係者と MLA 関係者が混在する中、資料紹介とその教材化という目標に向けての話し合いの中で、多様な観点での議論が盛り上がり、普段はなかなか聞くことのできない互いの立場での悩みや質問なども飛び交いました。

そうした様々な論点の中でも、下記図の事後アンケート結果が示すように、「学校関係者と MLA・自治体関係者の協働の機会やネットワークの構築」が特に重要だと感じられた参加者の方が多く、両者の「対話とコミュニケーション機会の創出」を第一目標とする本ワークショップの意義を再確認することができました。その他にも、同結果より、一般的に学校関係者と MLA・自治体関係者の間に認識の違があると予想される「資料の二次利用条件への理解」の重要性を感じていただいたことや、「資料のデジタル化の推進」の必要性について考えていただけたことも、子どもたちのもとに貴重な文化資源・多様な資料を届け、心豊かな学びに繋げるための一歩になったのではないかと思います。

また、本ワークショップが提言させていただいた「教育メタデータの検討や付与」についても、当日は限られた時間の中で実際に資料に紐付けるところまで行うチームは少なかったですが、今後の教育と資料をめぐる「繋ぐための」論点として関心を寄せていただくことができ、嬉しく感じております。

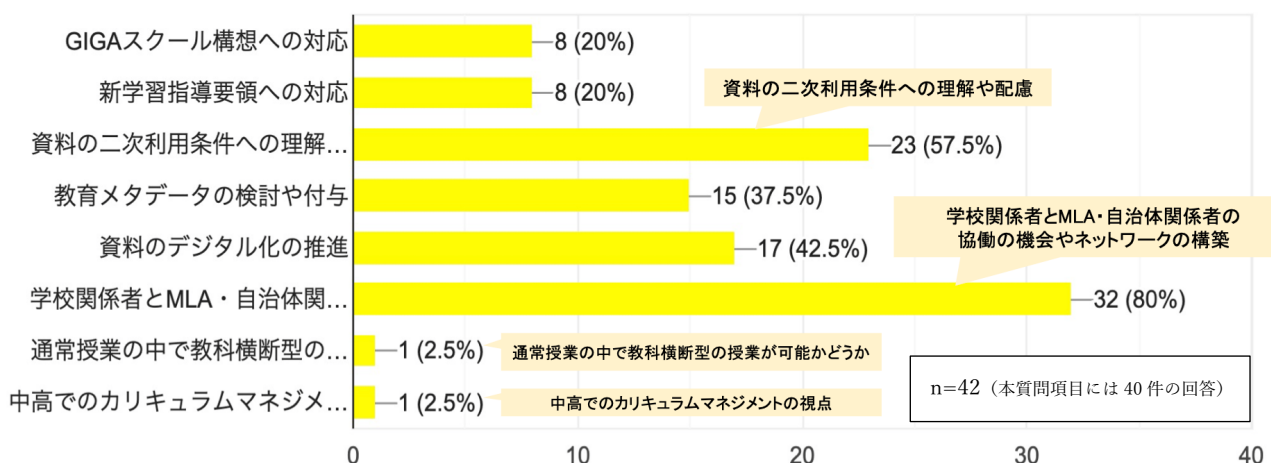


図 事後質問紙「今回のワークショップで出たトピックの中で、どの論点が特に重要だと感じましたか？」(複数回答可)の回答結果

## 5 ご所属属性ごとの事後アンケートのご意見

学校関係者の皆様からは、「カリキュラムや単元との繋がり」を踏まえた上での「資料検索におけるアクセシビリティ」や、「二次利用条件の厳しさや不明瞭さに関する悩み」が多く挙げられたという特徴がありました。日本においては文化資源の利活用に関して慎重であったり利用条件が厳しい姿勢をとるMLAや自治体も多い中、それらが子どもたちの心豊かな学びを時に阻害することになっているという点は、学校現場の先生方の共通する悩みであることが明らかになったところでした。

MLA関係者の皆様からは、学校での利用者側が「どんな資料が欲しいのか」また学校現場に「どうアプローチすればいいのか」が知りたい、というように学校サイドの需要に関する意見が多く挙げられたという特徴がありました。また、「活用実績」などが「予算要求のエビデンスために必要」という意見もあり、貴重な資料のデジタル化やその持続可能性の観点からも、本ワークショップのようにまずは学校の先生方に知ってもらう・活用してもらうことや、学校での授業などで実際に子どもたちの学びに繋がった実践を行っていくことの重要性も示唆されました。

このような両者の悩みなどからも、「こんなに面白い資料があって教材に使っていいのか」「この資料をこんな形で学習教材にして授業で使ってもらえるのか」という、両者の対話やコミュニケーションを通して創発する知見によって stock されている資料を flow 化することが重要だと改めて考えさせられました。

## 6 ワークショップのその後

以上のように教材化に向けた、またそれに関する多様なトピックで活発な議論が行われた第1回ワークショップでしたが、終了後には「教材化の更なる続きもやりたい！」との熱いお声もお寄せいただきました。そこで、その後二日程を設定し、第1回ワークショップ参加者のうちご都合のつく有志メンバーで、「モクモク会」を開催させていただきました。「モクモク会」では、ワークショップよりもさらにアットホームにまったりした雰囲気の中で議論やときに雑談を交えつつ教材化の仕上げと「教育メタデータの付与」が行われました。

第1回ワークショップおよび「モクモク会」で制作された教材は、ADEACの[特設アーカイブ](#)として、IIIF(International Image Interoperability Framework)という国際的な相互運用性の高いビューアのマニフェストファイル内にメタデータを保持する形で実装し、公開しています。バラエティに富んだユニークな教材が生み出されていますので、ぜひご覧ください。これらの教材は、申請などの手続きを要することなく、ダウンロードするなどして教育目的で活用していただくことができます。活用の際は、それぞれの教材の二次利用条件に従ってご利用ください。

今後も本ワークショップは定期的開催し、参加者の方のご希望に応じて適宜セットで「モクモク会」を行うことで、資料と学校教育が紐づいた教材群のアーカイブを拡張し、現代の子どもたちに届けるとともに、未来にその知を継承することを目指して小さな歩みを進めていきたいと考えています。

ぜひ、今後の[ワークショップ](#)にお気軽にご参加いただければと存じます。

皆様とワンチームで文化資源と子どもたちの心豊かな学びを「繋ぐ」あり方を一緒に考え、つくっていただけること、心よりお待ちしております。

文責：TRC-ADEAC 特任研究員／東京大学大学院学際情報学府

大井将生 [oi.masao@mail.trc.co.jp](mailto:oi.masao@mail.trc.co.jp)

教材化ワークショップ HP <https://wtmla-adeac-r.com/>

教材デジタルアーカイブ <https://trc-adeac.trc.co.jp/Html/Home/9900000010/topg/SxUKILAM/index.html>